

37:1 ヤコブは、父が一時滞在していた地、カナンに地に住んでいた。37:2 これはヤコブの歴史である。ヨセフは十七歳のとき、彼の兄たちと羊の群れを飼っていた。彼はまだ手伝いで、父の妻ビルハの子らやジルパの子らといっしょにいた。ヨセフは彼らの悪いうわさを父に告げた。37:3 イスラエルは、彼の息子たちのだれよりもヨセフを愛していた。それはヨセフが彼の年寄り子であったからである。それで彼はヨセフに、そでつきの長服を作ってやっていた。37:4 彼の兄たちは、父が兄弟たちのだれよりも彼を愛しているのを見て、彼を憎み、彼と穏やかに話すことができなかった。37:5 あるとき、ヨセフは夢を見て、それを兄たちに告げた。すると彼らは、ますます彼を憎むようになった。37:6 ヨセフは彼らに言った。「どうか私の見たこの夢を聞いてください。37:7 見ると、私たちは畑で束をたばねていました。すると突然、私の束が立ち上がり、しかもまっすぐに立っているのです。見ると、あなたがたの束が回りに来て、私の束におじぎをしました。」37:8 兄たちは彼に言った。「おまえは私たちを治める王になろうとするのか。私たちを支配しようとも言うのか。」こうして彼らは、夢のことや、ことばのことで、彼をますます憎むようになった。37:9 ヨセフはまた、ほかの夢を見て、それを兄たちに話した。彼は、「また、私は夢を見ましたよ。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいるのです」と言った。37:10 ヨセフが父や兄たちに話したとき、父は彼をしかって言った。「おまえの見た夢は、いったい何なのだ。私や、おまえの母上、兄さんたちが、おまえのところに進み出て、地に伏しておまえを拝むとも言うのか。」37:11 兄たちは彼をねたんだが、父はこのことを心に留めていた。37:12 その後、兄たちはシエケムで父の羊の群れを飼うために出かけて行った。37:13 それで、イスラエルはヨセフに言った。「おまえの兄さんたちはシエケムで群れを飼っている。さあ、あの人たちのところに使いに行ってもらいたい。」すると答えた。「はい。まいります。」37:14 また言った。「さあ、行って兄さんたちや、羊の群れが無事であるかを見て、そのことを私に知らせに帰って来ておくれ。」こうして彼をヘブロン谷から使いにやった。それで彼はシエケムに行った。37:15 彼が野をさまよっていると、ひとりの人が彼に出会った。その人は尋ねて言った。「何を捜しているのですか。」37:16 ヨセフは言った。「私は兄たちを捜しているところです。どこで群れを飼っているか教えてください。」37:17 するとその人は言った。「ここから、もう立って行ったはずですよ。あの人たちが、『ドタンのほうに行こうではないか』と言っているのを私が聞いたからです。」そこでヨセフは兄たちのあとを追って行き、ドタンで彼らを見つけた。37:18 彼らは、ヨセフが彼らの近くに來ないうちに、はるかかなたに、彼を見て、彼を殺そうとたくらんだ。37:19 彼らは互いに言った。「見ろ。あの夢見る者がやって来る。37:20 さあ、今こそ彼を殺し、どこかの穴に投げ込んで、悪い獣が食い殺したと言おう。そして、あれの夢がどうなるかを見ようではないか。」37:21 しかし、ルベンはこれを聞き、彼らの手から彼を救い出そうとして、「あの子のいのちを打ってはならない」と言った。37:22 ルベンはさらに言った。「血を流してはならない。彼を荒野のこの穴に投げ込みなさい。彼に手を下してはならない。」ヨセフを彼らの手から救い出し、父のところに戻すためであった。37:23 ヨセフが兄たちのところに来たとき、彼らはヨセフの長服、彼が着ていたそでつきの長服をはぎ取り、37:24 彼を捕らえて、穴の中に投げ込んだ。その穴はからで、その中には水がなかった。37:25 それから彼らはすわって食事をした。彼らが目を上げて見ると、そこに、イシュマエル人の隊商がギルアドから来ていた。らくだには樹膠と乳香と没薬を背負わせ、彼らはエジプトへ下って行くところであった。37:26 すると、ユダが兄弟たちに言った。「弟を殺し、その血を隠したとて、何の益になろう。37:27 さあ、ヨセフをイシュマエル人に売ろう。われわれが彼に手をかけてはならない。彼はわれわれの肉親の弟だから。」兄弟たちは彼の言うことを聞き入れた。37:28 そのとき、ミデヤン人の商人が通りかかった。それで彼らはヨセフを穴から引き上げ、ヨセフを銀二十枚でイシュマエル人に売った。イシュマエル人はヨセフをエジプトへ連れて行った。37:29 さて、ルベンが穴のところに戻って来ると、なんと、ヨセフは穴の中にいなかった。彼は自分の着物を引き裂き、37:30 兄弟たちのところに戻って、言った。「あの子がいない。ああ、私はどこへ行ったらよいのか。」37:31 彼らはヨセフの長

服を取り、雄やぎをほふって、その血に、その長服を浸した。37:32そして、そのそでつきの長服を父のところに持って行き、彼らは、「これを私たちが見つけました。どうか、あなたの子の長服であるかどうか、お調べになってください」と言った。37:33父は、それを調べて、言った。「これはわが子の長服だ。悪い獣にやられたのだ。ヨセフはかみ裂かれたのだ。」37:34ヤコブは自分の着物を引き裂き、荒布を腰にまとい、幾日もの間、その子のために泣き悲しんだ。37:35彼の息子、娘たちがみな、来て、父を慰めたが、彼は慰められることを拒み、「私は、泣き悲しみながら、よみにいるわが子のところに下って行きたい」と言った。こうして父は、その子のために泣いた。37:36あのミデヤン人はエジプトで、パ口の廷臣、その侍従長ポティファルにヨセフを売った。

導入

ヨセフの人生についてのシリーズ説教を始める前に、ヨセフの人生について学ぶのが大切である理由を3つお伝えしたいと思います。

1. ヨセフは、もっとも完全な「キリスト」の予型である。

ルカ 24 : 27 で、イエスはご自身が聖書の至るところに表されているとエマオの途上にあつたふたりにおっしゃいました。

これは、創世記も含まれます。

このシリーズを学ぶと、ヨセフに起こったことがイエスにも起きたとわかります。また、ヨセフの性質は、イエスのご性質を映し出すものへと変えられていったこともわかります。

こうして、ヨセフの話の中に秘められたイエスの姿を見ることができるようになります。

旧約聖書には、キリストの予型が数多く登場しますが、中でもヨセフはもっとも完全なキリストの予型です。

2. ヨセフは、崩壊した家庭に生まれた。

ヨセフには、ヤコブという父がいました。しかし、母親は4人もいました。ヤコブには妻ふたりとそばめがふたりいたからです。

ヨセフの母ラケルは、ヨセフが幼い時にもうひとりの息子を産み、出産時に亡くなりました。ヨセフの本当の母親はラケルですから、ヨセフは本当の母親をほとんど知ることなく育ちました。ヨセフの兄たちは皆、年が離れていたため、それほど仲良くもありませんでした。

これは、自分の育った家庭は理想的な家庭ではなかったという人にとって励みになります。親が離婚していたり、親から虐待やひどい扱いを受けたりした人もいるかもしれません。または、親を知らずに育った人もいるかもしれません。

そんなつらい過去があっても、必ずしもその過去が私たちの未来やイエスに仕えるチャンスに影を落とすわけではないと、ヨセフの人生は教えてくれます。

イエスは、私たちの家庭環境に関する過去の傷を癒すことのできるお方です。また、私たちの人生を変え、神の永遠のご計画の中で私たちを用いることのできるお方です。

このことに、私は励まされています。

この事実が皆さんにとっても励ましとなりますように。

3. ヨセフの人生は、クリスチャンの人生における重要な課題について多くを教えてくれる。

私たちは、「赦し」「誘惑を退けること」「義の報いを刈り取ること」「恵み」「イエスとともに苦難を乗り越えること」「見知らぬ土地での神の備え」「蒔いた種を刈り取ること」「悔い改め」など、多くのことをこの話から学びます。

このような聖書の重要な教えが、ひとりの人の人生の中に描かれています。

これらは抽象的な概念ではありません。私たちの置かれる実在の状況に応用することで役に立つ現実的な教えです。

ここには、応用できる真理が詰まっています。それらは、現在の私たちの人生に対する神のみこころを知る知識と恵みにおいて成長する助けとなります。

これらのことを念頭に、創世記 37 章の学びを始めましょう。

37 章は、3 つの部分に分けることができます。

1-11 節には、父親に気に入られたけれど、兄たちには憎まれた子どもについて描かれています。また、その子どもヨセフが預言とも取れる夢を見ていたことがわかります。

12-18 節では、ヨセフの兄たちがヨセフを殺す機会を得たことが描かれています。しかし、ルベンが他の方法で懲らしめようと提案したことによって未然に防がれました。まず、ヨセフは穴に放り込まれ、その後、エジプトに向かう行商に奴隷として売られました。

最後に 29-36 節で、ヤコブが騙され、ヨセフに先立たれて悲しむ様子が描かれています。では、この 3 つの部分のひとつずつひもといていきましょう。

1. 十代のヨセフは、偉大になる夢を見る。兄たちから妬まれる。(1-11 節)

まず、3 節に注目しましょう。

創世記 37 : 3

37:3 イスラエルは、彼の息子たちのだれよりもヨセフを愛していた。それはヨセフが彼の年寄り子であったからである。それで彼はヨセフに、そでつきの長服を作ってやっていた。

この個所から、年老いた父がヨセフを特別扱いしていたことは明らかです。

父親がヨセフに作った長服は、当時の文化では深い意味がありました。

それは、気に入られているという事実だけでなく、身分や地位を表していました。

この長服は、ヨセフを労働者ではなく管理者と位置付けました。

このことから、ヤコブは遺産も他の息子たちよりヨセフに多くを遺すつもりだろうと思われたでしょう。

ヨセフが生まれてから 17 歳になるまで、家族はあらゆる移り代わりを経験しました。

住む場所が変わったり、誰かがたいへんな目に遭ったり、いつも落ち着きがありません。

今、その背景について読む時間はありませんが、創世記 30 : 24-37 : 2 を読むと、この家族にとってたいへんな時期だったことがわかります。

そこには、口論、嫉妬、強姦、殺人、憎しみなど、あらゆることが記されています。

ヨセフは、そのような崩壊した家庭で育ちました。

ヨセフの最初の過ちは、2 節に記されています。そこには、「ヨセフは彼らの悪いうわさを父に告げた。」とあります。

新共同訳には、「ヨセフは兄たちのことを父に告げ口した。」とあります。

ヨセフと兄たちはすでに仲たがいでいたのに、そんなことをすれば火に油です。

4 節は、兄たちはヨセフを憎むあまり、穏やかに話すこともできなかつたと語ります。

ヨセフの兄たちは、箱に詰まった爆竹のようでした。爆発できるように誰かが火をつけてくれるのを待っていたのです。

ほんの些細なことで、ヨセフを殺そうと兄たちの心に火をつけるには十分でした。

このような状況に加え、ヨセフは預言らしき夢を二度見ました。

創世記 37 : 6-7,9

37:6 ヨセフは彼らに言った。「どうか私の見たこの夢を聞いてください。

37:7 見ると、私たちは畑で束をたばねていました。すると突然、私の束が立ち上がり、しかもまっすぐに立っているのです。見ると、あなたがたの束が回りに来て、私の束におじぎをしました。」

37:9 ヨセフはまた、ほかの夢を見て、それを兄たちに話した。彼は、「また、私は夢を見ましたよ。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいるのです」と言った。

このふたつの夢は、ヨセフと兄たち関係を一層悪化させました。

10 節には、ヨセフがこれらの夢について父にも話したとあります。父はこの夢が何を意味するかを予測し、ヨセフをしかりました。しかし、11 節には、ヨセフの父がヨセフの夢について何か見抜いていた可能性が示されています。

創世記 37:11 兄たちは彼をねたんだが、父はこのことを心に留めていた。

ヤコブは、このふたつの夢をとおして神がヨセフに何かを伝えようとしておられると感じたのでしょう。

ヤコブは、ヨセフが偉大な人物になるという将来の可能性を完全には否定しませんでした。聖書には、よくわからないことが起こった後に似たような反応をした人の例がもうひとつ記されています。

ルカ 2 : 47-51

2:47 聞いていた人々はみな、イエスの知恵と答えに驚いていた。

2:48 両親は彼を見て驚き、母は言った。「まあ、あなたはなぜ私たちにこんなことをしたのです。見なさい。父上も私も、心配してあなたを捜し回っていたのです。」

2:49 するとイエスは両親に言われた。「どうしてわたしをお捜しになったのですか。わたしが必ず自分の父の家にいることを、ご存じなかったのですか。」

2:50 しかし両親には、イエスの話されたことばの意味がわからなかった。

2:51 それからイエスは、いっしょに下って行かれ、ナザレに帰って、両親に仕えられた。母はこれらのことをみな、心に留めておいた。

イエスが 12 歳の時、母マリヤはイエスが何かとても特別な人であることを感じ取っていました。

マリヤの反応は、ヤコブがヨセフの夢を聞いたときの反応と似ています。

では、この個所から、私たちは何を学び、日常生活に活かすことができるでしょう。

神のことばが示されると憎まれます。

この個所で、ヨセフの夢をとおして神のことばが明らかに語られています。

ヨセフの夢は一見、霊的なものではなく、自己中心で世俗的なものに見えます。

しかし、私たちはヨセフの人生の結末を読んで知っているので、これらの夢が神の証だったことがわかります。

神は、どの時代にもこの世に語りかけられます。

当時の文化では、このような夢はしばしば神からのお告げや予言だと考えられていました。

夢は、神の主権を表すもので、神がこの世も人の人生も支配しておられるということの表明でした。

私たちは、この夢が実現すると知っていますが、当時の人々は知りませんでした。

このふたつの夢は、彼らの将来にどういうことが起こるかを正確にあらわしていました。

人がそれを好んでも好まなくても、これらの夢は神のことばでした。

ここで興味深いのは、夢がひとつではなくふたつだったことです。

これは、必ず成就することを示すために神がなされたことです。

後のイスラエルの慣わしでは、どんな言葉もふたりの証人によって成立しました。

ふたつの夢は、ヨセフの家族に対する神の最終的なご計画を証するふたりの証人の役割を果たしたのです。

けれども、このふたつの夢は、ヨセフの兄からも父からも受け入れられませんでした。

では、私たちへの適用です。

聖書は神のみことばです。これを真理として宣言すると、人は怒ったり、私たちの言うことを否定したりするでしょう。その理由のひとつは、その人たちにはそれが傲慢に聞こえるからです。

私たちクリスチャンは、神はただおひとりだと言います。

これは、他の神を信じている人には傲慢に聞こえます。その人たちの神は、何の価値もないのかということになります。

私たちは、イエス・キリストに信仰を置き、このお方が罪を赦してくださったと言います。

そして、私たちが死ぬと、天国に場所が用意されていると確信していると言います。

これも、救われていると100%確信しているというのは、多くの人には傲慢に聞こえます。

私たちは、イエスを拒めば死んだときに地獄に行くと言っています。

これも、神のみことばである聖書を信じるクリスチャン以外の人には、傲慢に聞こえます。

ここで私が言おうとしていることは、聖書とその真理に対する拒否反応があるからと言って、世の中の人たちに神のみことばを伝えるのを止めてはいけないということです。

私たちが神のみことばを伝える今の世代が、この世の最後の世代になるかも知れないからです。

マタイ 24：3-14

24:3 イエスがオリブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。

「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのでしょうか。あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」 24:4 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。

「人に惑わされないように気をつけなさい。 24:5 わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。 24:6 また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たものではありません。 24:7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。 24:8 しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。 24:9 そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに合わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。 24:10 また、そのときは、人々が大ぜいつまづき、互いに裏切り、憎み合います。 24:11 また、にせ預言者が多く起こって、多くの人々を惑わします。 24:12 不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。 24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。 24:14 この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。

2. ヨセフは、20枚で奴隷として売られた。(12-28節)

ヨセフの話は、次へと進みます。

イスラエルとも呼ばれているヤコブは、兄たちの様子を見に行くようヨセフに言い付けました。兄たちが無事か見に行くように言ったのです。それは、以前この一家に敵対した人たちがいる場所で兄たちが羊の群れを世話していたからです。

この時代、羊に良い草を与えるためには、場所を転々としなくてはなりませんでした。

ヨセフは、兄たちがヘブロン谷にいと父から聞かされていました。

それでシエケムに行きましたが、兄たちはそこにいませんでした。

ある人が、兄たちが他の場所に移ったとヨセフに教えてくれました。それは、「ドタン」という場所でした。

これは、ヨセフが出発した場所から約80km離れた場所です。

これはとても危険な状況です。

18節には、兄たちは遠くにヨセフを見つけると、ヨセフを殺そうとたくらんだとあります。

ヨセフを殺して深い穴に捨てようとして計画したのです。

けれども長男のルベンが、「あの子のいのちを打ってはならない」と言ってヨセフを救おうとしました。

ルベンは、兄弟で血を流してはいけない、傷つけずにただ穴に投げ込もうと提案しました。後からヨセフを助け出して、父のもとに帰らせようと考えたからです。

ルベンはどうも他の兄弟たちを離れ、怪我をさせずにヨセフを穴に入れたようです。

ルベンが離れていた間に、ユダが他の兄弟たちに言いました。

「弟を殺し、その血を隠したとて、何の益になろう。さあ、ヨセフをイシュマエル人に売ろう。」

兄弟たちはそのとおりにし、ヨセフを銀 20 枚で売りました。

ヨセフは、イシュマエル人によってエジプトへと連れていかれました。

私たちは、この話から何を学べるでしょうか。

a) 良いことも悪いことも、神の摂理を信頼しなくてはならない。

この個所には、この状況の中で神の御手が備え働かれることを知る手掛かりが 3 つ描かれています。

ひとつめは、ヨセフがひとりで野を歩きまわっていた時のことです。ある人がヨセフを見つけて、何を探しているのかとわざわざ尋ねます。

シエケムの人々は、ヤコブの一族のかつての敵です。

一族の敵である人がどこからともなく現れて、兄たちの行き先を教えてくれ、そちらのほうに行こうと兄たちが話しているのを聞いたと言うのは、通常では考えられないことです。

はっきりとは言えませんが、これは御使いだったかもしれません。確かに、神の摂理による働きです。

ふたつめは、ヨセフを殺すつもりになっていた野蛮な兄たちがいたことです。そして、突然、長男のルベンがヨセフの命を救って穴に入れたことです。

最後に、ヨセフが穴から引き上げられて、銀 20 枚で奴隷として行商に売られたことです。

この 3 つのことは、他の人の人生であれば、神の摂理や導きの御手とは捉えられないかもしれません。

しかし、ヨセフの人生の結末を踏まえて考えるなら、これらの出来事が隠れた神の御手であることは否定できません。神がご自身の目的のために、すべてを導かれたのです。

ここから言えるのは、私たちの人生に起こることは、良いことも悪いこともすべて、私たちの人生に対する神のご計画の一部であるということです。

このことを知るのは、つらいときの励みになります。また、大きな祝福を得て幸せなときも、謙虚にさせてくれます。

今、幸せな人もつらい人も、神がご自身のみこころを成そうと働いておられることを覚えてまいりましょう。神は、あなたのため、そして神のご栄光のために働いておられます。

b) キリストの予型がヨセフの人生に現れ始める。

ヨセフは、銀 20 枚で奴隷として売られました。当時、その金額で奴隷が売買されていました。新約聖書を開くと、奴隷の売買価格は銀 30 枚に上がります。

マタイ 26 : 14-16

26:14 そのとき、十二弟子のひとりで、イスカリオテ・ユダという者が、祭司長たちのところへ行って、26:15 こう言った。「彼をあなたがたに売るとしたら、いったいいくらくれますか。」すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支払った。26:16 そのときから、彼はイエスを引き渡す機会をねらっていた。

ヨセフの人生に起きた多くのことがイエスにも起きました。
ですから、聖書のずいぶん初めのページで、神がご自身の御子イエス・キリストの
ホールマークを持つ人物を登場させておられることがわかります。
ホールマークとは、その商品が本物であることを認証する印です。
すべての純金銀製品には、ホールマークがついています。
クリスチャンにとっての課題は、主イエス・キリストの人生のホールマークを私たち
の人生に持つことです。
ホールマークがあるということは、私たちは偽ものではなく、私たちの信仰が本物で
あるということです。
イエス・キリストの人生をしっかりと見つめるなら、イエスに従うという召しが非常に
大きな課題であることがわかるでしょう。

マルコ 8 : 34-38

8:34 それから、イエスは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、彼らに言われた。
「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そ
してわたしについて来なさい。 8:35 いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと
福音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。 8:36 人は、たとえ全世界を得て
も、いのちを損じたら、何の得がありません。 8:37 自分のいのちを買い戻すために、
人はいったい何を差し出すことができるでしょう。 8:38 このような姦淫と罪の時代に
あって、わたしとわたしのことばを恥じるような者なら、人の子も、父の栄光を帯び
て聖なる御使いたちとともに来るときには、そのような人のことを恥じます。」

イエスに従うという呼びかけに応答するとき、神はご自身のホールマークを私たちの
人生に押しつけてくださいます。それが実現すると、痛みを経験することになりますが、
得るものも大きいのです。

3. 欺き、嘘、そして死別の悲しみ (29-36 節)

37 章の最後の部分です。

ルベンがヨセフを助けようと穴のところに戻ると、もうヨセフはそこにいません。

ルベンはそこで着物を引き裂きました。なぜそんなことをしたのでしょうか。

これは、ユダヤでは、悲しみや喪失を表す表現です。実は、聖書でこの表現が登場するのは
ここが初めてで、その後、ユダヤの人々が悲しみや喪失感を表して着物を引き裂く場面が数
多く登場します。

ルベンは、兄弟たちのもとに行き、この状況について話し合います。ルベンは長男ですから、
ヨセフに起こったことの責任を負わなければなりません。

どうすればよいのでしょうか。

選択肢はふたつしかありません。ひとつめは、本当のことを言って父親の怒りを買うこと
です。もうひとつは、すべてを隠して、父親ヤコブをだますことです。

彼らは誤った選択をし、うそをついて父をだましました。

兄弟たちはヤギを殺して、その血にヨセフの着物を浸して父親のところに帰り、自分たちの
したことを隠そうとしました。

ヤコブは、ヨセフが野獣に殺された信じ、深く悲しみました。

ヨセフはヤコブの一番愛した息子だったので当然です。

その悲しみは、一番愛した息子ヨセフの死を一生悲しみ続けるというほどでした。

37 章は、ミデヤン人の行商がヨセフをパ口の廷臣ポティファルに売ったという情報で終わ
ります。

ポティファルは侍従長でもあり、エジプトの高官でした。

この最後の部分から、実生活に応用できる事柄を見ていきましょう。

a) 告白しない罪があると、私たちの心は神に対して頑なになる。

兄弟は結託して、ヨセフが野獣に殺されたように見せかけようとしてしました。

彼らはどうそをついたのです。それは兄弟全員が犯した罪です。

父親がどれほど悲しみ苦しんでいるかを見れば、兄弟のうちのひとりくらいは悔い改めて、本当のことを打ち明けると思いたいところですが、彼らは何年もこのことを秘密にしていました。

ずいぶん後になって、彼らがどのように罪と向き合わせられたかがわかります。

私も含めて多くのクリスチャンは、罪を犯すとどれほど小さな罪でもすぐにそれを告白しなければいけないということを学びます。

もし罪をすぐに告白しなければ、神との関係がうまくいかなくなり、神との親しい交わりから徐々に離れていってしまいます。

気づかなくても、悪魔が徐々に私たちの人生に入り込んで来て、しっかりと居座るようになります。

少しずつ教会にも行かなくなり、クリスチャン同士の交わりから離れるようになります。

クリスチャンの仮面をつけても、その心は神やみことばとともにありません。

その状態が長く続けば続くほど、罪を告白するのも難しくなります。

まだクリスチャンでない人は、何か一步踏み出せないことがあるから、神に自分の罪をなかなか告白できないのでしょう。

何かがあなたをそうさせないように踏みとどまらせているのです。

私たちは気づかなくても、目に見えないところで戦いが起こっています。

それは、私たちのたましいを永遠に勝ち取る戦いです。

悪魔は、私たちが悪魔に従うことを望んでいます。今のままでよい、自分の好きなように人生を生きればよいとささやいて、私たちが悪魔についていくように仕向けます。

楽しい人生が待っているなどと誘惑しますが、その楽しい人生は、本当の充実感をもたらしません。

神はあなたに語りかけておられます。どんな状況に置かれても、赦しと喜びの人生を与えると。

神は、あなたを深く愛していると語られます。そして、あなたの罪を負うために御子イエス・キリストを遣わしたとおっしゃいます。

私たちが罪を告白し、イエス・キリストを信じ、イエスが私たちの罪のために成してくださった十字架の御業を信じるなら、私たちは悪魔の力から解放され、イエスについていくことができます。

そうすれば、神の愛を心に感じられるようになります。そして、完全に赦されたという確信を得、平安がおとずれます。

決めるのはあなたです。私は、イエスを信じる信仰の一步を踏み出してくださいとただお勧めすることしかできません。

クリスチャンになっても、完ぺきな人にはなれません。けれども、神の聖霊をとおして神と一対一のつながりをもつことができます。そうすれば、神の平安と赦しを確信することができます。

すべてのクリスチャンにとっての大きな祝福は、罪を告白すると、神が真実で正しいお方なので、私たちの罪を赦し、すべての悪から私たちを洗いよめてくださることです。

(ヨハネ第一 1:9)

b) 私たちに起こる悪いことも、神の恵みの器となり得る。

ローマ 8:28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

神は、ヨセフが責任ある立場に置かれる将来に備えて、必要な訓練を与えておられました。このときのヨセフは、そのことを知る由もありませんでした。

しかし、後になって、ヨセフはこのように語りました。

創世記 50 : 19-20

50:19 ヨセフは彼らに言った。「恐れることはありません。どうして、私が神の代わりでしょうか。 50:20 あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。それはきょうのようにして、多くの人々を生かしておくためでした。」

私たちクリスチャンがたいへんな苦勞をするとき、神が将来のために私たちを備えておられるということ、私たちはあらかじめ知りません。

しかし、そのような苦難を神の訓練の場と受け止めるなら、試練のうちにも神の御手を感じられるようになるでしょう。

その試練が何のためであったか、天国に行くまでわからないこともあります。

年を重ねて人生を振り返った時に、神の御手が導いておられたことがはっきりとわかる場合もあります。

私たちの置かれた状況に神が見えないときこそ、信仰が必要です。見えなくても神がそこにおられ、すべてを導いておられると信じる信仰です。

この大切な真理を語るフレデリック・フェイバーの詩があります。

神はご自身を隠される
神などおられないかのように
悪の力がはびこるとき
神は目に見えない

神のまったく見えないときに
神がおられるとわかるのは
神から大いなる祝福を
いただいた人

Frederick William Faber (1814 – 1863)

これらの真理を日常生活で日々応用していく私たちを、神が祝福して下さいますように。